2021年度　ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金募集要項

本奨学金は、本学学部および大学院に在籍する学生で、ジェンダーに関わる活動・研究をした者（団体）、あるいは活動・研究を計画している者（団体）を幅広く対象とし、2000年度から募集を始めた奨学金です。

（A）ジェンダーフォーラム論文賞

対　　象：学部学生・大学院生（個人・団体）
支 給 額：優秀：10万円、佳作：5万円
採用件数：1～4件
選考方法：論文審査
提出書類：①ジェンダーフォーラム論文賞申込書＊
②論文（日本語2万字以内の未発表論文）
備　　考：執筆にあたってはジェンダーフォーラム『年報』投稿規定に従うこと。

書類提出期間：2021年 10月1日（金）～2021年 10月31日（日）まで
書 類 提 出 先：ジェンダーフォーラム（gender@rikkyo.ac.jp）に添付ファイルで提出
採　用　発　表：11月22日（月）学生課奨学金掲示板（池袋／新座）、10号館連絡通路掲示板、立教時間、フォーラムHPに掲示予定
授　　与　　式：11月末～12月上旬（予定）

【ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金（A）・（B）の申込書（願書）の利用目的】
標記の申込書（願書）で取得した個人情報は、奨学金採用者（団体）の選考および発表のために利用する。採用者（団体）の論文・報告書等は「年報」に掲載する。また、奨学金制度広報のため冊子、WEB等に採用者名を記載することがある。
以上に同意した上で、申込書（願書）を提出すること。その他、個人情報の取扱いについては、「プライバシーポリシー：立教大学における個人情報の取扱について」（https://www.rikkyo.ac.jp/privacypolicy/）に準じる。
※（B）活動・研究助成金の募集は終了しました。
詳細や不明な点はジェンダーフォーラム事務局にお問い合わせください。
ジェンダーフォーラム事務局（池袋キャンパス6号館1階）　Tel：03-3985-2307　E-mail：gender@rikkyo.ac.jp
＊申込書、願書はホームページ上からダウンロードできます。（http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/）

2021年度ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金B奨学生決定！

2021年4月に募集いたしました（B）活動・研究助成金には4件のご応募があり、5月12日に開催された選考委員会において、3件に助成金を授与することを決定いたしました。選考結果は下記のとおりです。

ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金（B）活動・研究助成金選考結果

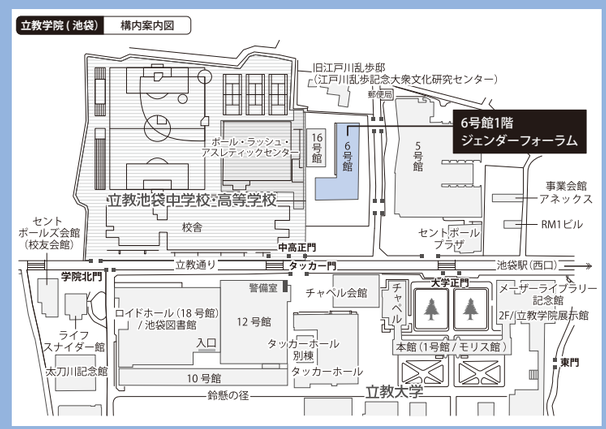
奨学生氏名（所属）	研究課題	支給額
小松　恵（社会学研究科社会学専攻博士課程後期課程3年）	「ジェンダーが多文化コミュニティの形成に与える影響――川崎市ふれあい館高齢者事業ウリマダンを事例として」	8万円
有馬　三冬（文学研究科英米文学専攻博士課程後期課程1年）	「"Rappaccini's Daughter" における言葉とジェンダー」	8万円
池田　百花（文学研究科フランス文学専攻博士課程後期課程1年）	「モーリス・ブランショにおける女性性――マルグリット・デュラス論を通して」	4万円

立教大学ジェンダーフォーラムのご案内

「常識」にとらわれず、性差やセクシュアリティ（性自認・性的指向など）についての問題を本音で語り合い、考える場、それがジェンダーフォーラムです。ジェンダー（gender）とは、社会や文化の「常識」にしたがってつくられた性差のこと。「女／男らしさ」「女／男役割」や異性愛を「あたりまえ」とする考え方もそのひとつです。「常識」「あたりまえ」とみなされている性をめぐる社会通念・制度・規範には、一人ひとりの個性的なあり方を抑圧するものが少なくありません。ジェンダーフォーラムは、女子学生寮ミッチェル館（1998年閉館）の精神を受け継ぎ、ジェンダーについての教育・研究拠点として1998年に誕生しました。ジェンダーに関する身近な違和感をもっている方から学識を深めたい方まで、様々な人に広く開かれています。より多くの人々が、自分自身の問題として社会生活における「ジェンダー」に気づき、理解し、考える契機となるよう、公開講演会やジェンダーセッション、コーヒーアワーなどを開催しています。

開　室　日：毎週月曜日～金曜日
開 室 時 間：10：00～16：00
※新型コロナウィルス対策のため、一時的に開室日時を変更する可能性がございます。詳しくはホームページをご確認ください。
場　　所：立教大学池袋キャンパス6号館1階
TEL&FAX：03-3985-2307
E-mail：gender@rikkyo.ac.jp
URL：http://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/

Gender Forum Rikkyo University



詳細は、10号館通路のジェンダーフォーラム掲示板またはHPでご覧ください。

GEM

Vol.45 2021.10.1
Rikkyo Gender Forum News Letter

Gender Forum Rikkyo University

Gemとは…命名時には本フォーラムがその精神を受け継いでいる立教大学女子寮ミッチェル館（1998年閉館）の "M" にちなんだものでした（Gender Encountering in Mitchell）。現在はさらなる発展を企図して、ジェンダー平等の実現を目指すことを意味するGender Equality in the Makingとし、ニューズレター、メーリングリストの名前として使用しています。

ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金（B）活動・研究助成金

所長所感――授賞式にかえて

5月12日に2021年度ロザリー・レナード・ミッチェル記念奨学金（B）の選考会が行われ、社会学研究科・社会学専攻・博士課程後期課程3年の小松恵さんの「ジェンダーが多文化コミュニティの形成に与える影響――川崎市ふれあい館高齢者事業ウリマダンを事例として」、文学研究科・英米文学専攻・博士課程後期課程1年の有馬三冬さんの「"Rappaccini's Daughter" における言葉とジェンダー」と、文学研究科・フランス文学専攻・博士課程後期課程1年の池田百花さんの「モーリス・ブランショにおける女性性――マルグリット・デュラス論を通して」の三つの研究が採択されました。例年、授賞式が行われているのですが、昨年に引き続き、本年も新型感染症拡大を考慮して式を中止するという判断をせざるを得ず、代わりにこのGemの紙面を通じて、お祝いの言葉をお伝えいたします。おめでとうございます。お三方の研究成果は今年度の『ジェンダーフォーラム年報』に掲載されることになっておりますので、是非みなさま、お読みください。私も次号でお三方が仕上げてくる成果を拝見できることを楽しみにしております。

この通称ミッチェル奨学金は、本学学部および大学院に在籍する学生で、ジェンダーに関わる活動・研究をした者（団体）、あるいは活動・研究を計画している者（団体）を幅広く対象とした奨学金です。春学期には活動・研究についての助成を目的とした（B）、秋学期には未発表の投稿論文を対象とする論文賞である（A）という年2回の募集を行っています。

ミッチェル奨学金（A）または（B）の受賞者は、その成果の延長で、順調に修士または博士論文の完成に近づいていたり、日本学術振興会特別研究員に採用されたりといったうれしい報告を耳にしています。また、残念ながら受賞には至らなかった応募者の方にも、審査時のコメントを提供することによって、研究のさらなる発展を支援しています。奨学金というものは単に現時点での成果にお金を出すということだけではなく、そこからさらにその後の大きな仕事に結びつく教育的なものであることが重要なはずです。そもそもミッチェル奨学金は、本学の女子学生寮の設立時に功績のあったロザリー・レナード・ミッチェル氏の遺志を発展的に継承すべく設立されたものです。ですから、この奨学金が"人を育てる"ものとして意味を持ち続けていることに誇りを感じています。興味がある学生は、是非、応募してみてください。多岐にわたるジェンダー課題に関する、熱意のこもった、そしてできれば学際的な、新しい研究を楽しみにしています。

ゾンターク・ミラ（ジェンダーフォーラム所長／本学文学部キリスト教学科教授）

ACTION REPORT

第83回ジェンダーセッション（2021年6月29日（火））

「ウィキペディアとジェンダー」

登壇者：北村紗衣氏（武蔵大学准教授）

「ウィキペディアは実は男の世界」。北村先生が執筆された記事の題名である。女性のウィキペディアン（ウィキペディアの編集者）は2013年時点でわずか16%だそうだ。

6月29日に開催されたジェンダーセッションでは、私たちに身近なウィキペディアのジェンダー問題について北村先生が講演を行った。ウィキペディアは誰でも編集が可能であり、秀逸な記事や削除する記事はウィキペディア内の投票で決めるため、編集者の偏りを反映することとなる。ウィキペディアのような百科事典は社会の鏡であり、社会からジェンダーバイアスがなくならない限り、ウィキペディアからもバイアスはなくならない、という北村先生の主張が講義全体を通して伝わってきた。

女性のウィキペディアンが少ないことから、女性に関する記事が書かれることは少ないということは想像し易いが、女性に関するものとみなされる記事は削除依頼に出されやすいという話には衝撃を受けた。その例の一つとして、女性のコンピューター科学者ケイティ・バウマンと、男性のNASAの職員ボバック・ファードーシに関する記事が挙げられた。両者とも、科学者の人間味を紹介するという点は共通しているにも関わらず、ウィキペディアでの扱いには大きな差があった。ケイティ氏は削除依頼が出され個人攻撃された一方で、ボバック氏は記事の必要性について少し議論になったに過ぎなかった。ケイティ氏は、ブラックホールの画像を初めて捉えることに成功したチームに所属し、優秀な科学者であるにも関わらず、若くて容姿が整っているために記事が作られたのではないかという性差別的な批判があったという。削除依頼はウィキペディア内のコミュニティで出されたものだが、性差別的な個人攻撃を受けたのはSNS上である。世の中のジェンダーバイアスはウィキペディアに反映されるという先生の言葉の根拠になるような事例である。

北村先生は、講演の中で「ないものに気付く」重要性を指摘した。物事をフェミニスト批評的な観点から見るには、何があるか、ではなく何がないか、ということに注目することが重要であり、さらにその重要性を認識するには経験が必要だという。この言葉の意味を自分なりに解釈したところ、物事を考える際に、当たり前のように存在している考え方だけではなく、現実に起こっていないことについて考えを巡らせ、想像することが重要という意味ではないだろうかという考えに至った。「ないものに気付く」重要性を認識するために、今後実生活において、存在していないもの・ことに着目しながらジェンダーバイアス、フェミニズムについて思考を巡らせたい。

冨田友衣（本学法学部法学科4年）

立教大学のジェンダー、セクシュアリティ関連サークル紹介「RikkyoPride」

皆さんはじめまして、RikkyoPrideです。私たちは立教大学非公認のセクシュアルマイノリティ及びアライのサークルで、主に池袋キャンパスをメインに活動をしています。

この団体を立ち上げた理由は、大学でセクシュアルマイノリティ当事者が居場所として感じられるようなところを作りたいという想いからでした。現在は様々な人が集まり、メンバーは9人（4年4人、3年2人、2年1人、1年2人）です。顧問は昨年まで英語指導をしていた先生が務めていましたが、現在は海外にいらっしゃるので、学生だけで活動しています。

活動内容としては、コロナ以前は2週間に1回ほどジェンダーフォーラムで集まり、お昼ご飯を食べながらおしゃべりをしたり、季節のイベントに合わせてみんなで遊びに行ったりという形でした。コロナ以降は不定期でZoomおしゃべり会をしたり、ネットフリックスパーティをしたりという形で活動してきました。基本的には今後もこういった活動内容で続けていくつもりですが、こういうイベントをやってみたい、参加したいなどのアイデアも募集中です。

最後に、ここで自分のセクシュアリティを語る必要はありませんし、私たちももちろんそれを求めることはしません。参加理由はなんとなくジェンダーやセクシュアリティの事に対し、疑問があったり、モヤモヤしているけど周囲の人には話しづらい、一緒に語り合う場所が欲しいなどでも大歓迎です。入部締め切りや制限などは一切ありません。いつでも、学年も関係なく募集中です。

まずはおしゃべり会への参加だけでも全く問題ありませんので、皆さんの参加をお待ちしております!

連絡は基本的にSNS上で行いますので以下をご参照ください。
Twitter　@rikkyopride
Instagram　rikkyopride

RIKKYOPRIDE

ACTION REPORT

「大学におけるセクシュアリティに関する意識、環境アンケート調査」を実施して

「LGBT、LGBTQ +という言葉や意味を知っていますか?」

立教大学では、2021年1月に全学生を対象とした「セクシュアリティに関する意識、環境アンケート調査」を実施した。アンケートの主催部局は、学生部および「多様なセクシュアリティへの理解と環境整備について考える会」という学内有志の教職員によるプロジェクトチーム（通称、R-CAP）である。私はそのR-CAPのメンバーの一人として、今回アンケートの実施に携わった。

アンケート実施の背景には、学生からのリアルな声を聞きたいという考えがあった。そのためアンケートは、匿名の形で、そして全てWeb上で完結する形で実施をした。その結果、多くの具体的かつ現実的な意見を把握することが出来たと考えている。一方で、回答者の中には、「分からない」や「無記入」といった回答をする層が多くいたという事実もあった。

冒頭の「LGBT、LGBTQ +という言葉や意味を知っていますか?」という質問に対して、「知らない」と回答した人は1割にも満たなかったが、「立教大学はLGBTもしくはLGBTQ +の学生にとって過ごしやすい環境だと思いますか?」という質問に対しては、約3割の回答者が「分からない」という回答をしていた。「分からない」という回答した人の中で多くあった意見は「知識が不足していて分からない」という声であった。確かに、最近ニュースなどでも、LGBTやLGBTQ +といった言葉自体は耳にすることが多い一方で、何となく自分に関係のない話と、その先の具体的な部分に関心を持っていない人もいるかと思う。その様な人に、私が個人的に伝えたいことが、是非大学という学びの場を活用して、セクシュアリティについて正しく知識を身に着けて欲しいということである。幸いにして、立教大学には、セクシュアリティについて学べる多くの講義があり、ジェンダーフォーラムの様なセクシュアリティについて考えられる場もある。実際に私自身も立教大学の学生時代に、セクシュアルマイノリティの先生による講義を受け、自分がいかにセクシュアリティに関して浅い知識しか持っていなかったかと、気付いた経験がある。

LGBT、LGBTQ +という言葉を知った次は、そこから一歩先へ自ら意識を向けて、理解を深めていく。この姿勢は学生のみならず教職員も大切にしなければいけないことと思う。そこで今、R-CAPでは、教職員を対象として、多様なセクシュアリティへの理解を深めるための研修の実施も検討している。この様な活動を通じて、立教大学が、誰しもが自分らしく生き生きと過ごせる場となることを切に願っている。

青木佑馬（ジェンダーフォーラム運営委員／本学職員）